

6 - 4 紀伊半島およびその周辺域の微小地震活動 (1982年11月～1983年3月)

Microearthquake Activity in and around the Kii Peninsula
(November, 1982 - March, 1983)

東京大学地震研究所 和歌山微小地震観測所
Wakayama Microearthquake Observatory
Earthquake Research Institute, University of Tokyo

今回の報告期間中の地震活動立体分布を第1図(紀伊半島および周辺域)、第2図(紀伊半島西部一帯の浅発地震)、第3図(和歌山市近傍の局発地震)に示す。

地殻内地震

紀伊半島西部の群発地域内では引き続き和歌浦湾一帯の活動が高く、竜門山(郡賀町)、日ノ岬沖、有田川中流および下流域の活動がこれに次ぐ程度であり、第4図の時空間分布に示すように前回の報告(Vol. 29, 6-3)と概ね同様の活動が続いている。なお、和歌山市域では紀ノ川下流南岸付近の活動と東部のNNE-SSWの走向に分布する活動が見られるが、中間部分は殆んど地震が起こらなくなっている。1月27日に有田川河口沖8km付近に $M = 3.3$ の地震を含む活動があり、この地域としては極く珍しい地震であり注目される。日高川付近の活動は低調であったが、中津川村付近に3月16日に $M = 3.6$ の地震が起っている。

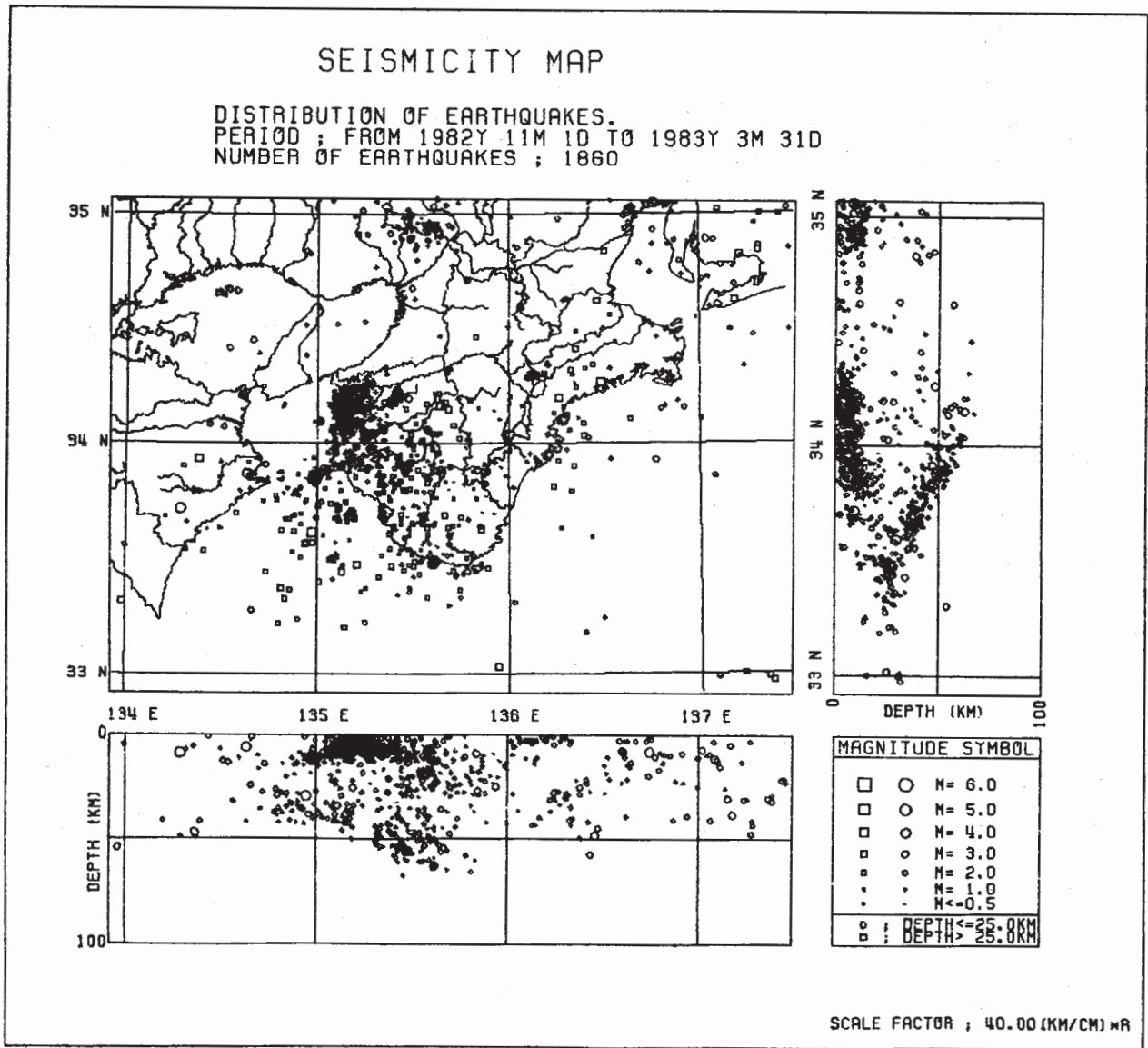
他地域では、三重県飯高町付近に微小地震ながら塊状の活動が見られるほか、奈良県五條市南部、和歌山県岩出町北部にも若干の活動が見られた。なお、京都方面の活動が少し高くなったようである。四国側では徳島南部に $M \geq 4$ の地震が2つ見られた。

地殻底下地震

主な活動地域の時空間分布を第5図に示す。12月18日の紀伊水道の地震($M = 4.1$)が最も大きく、内陸部では特に目立った地震は起って居らず、3月8日の奈良県南部の地震が $M = 3.3$ で最大のものであった。

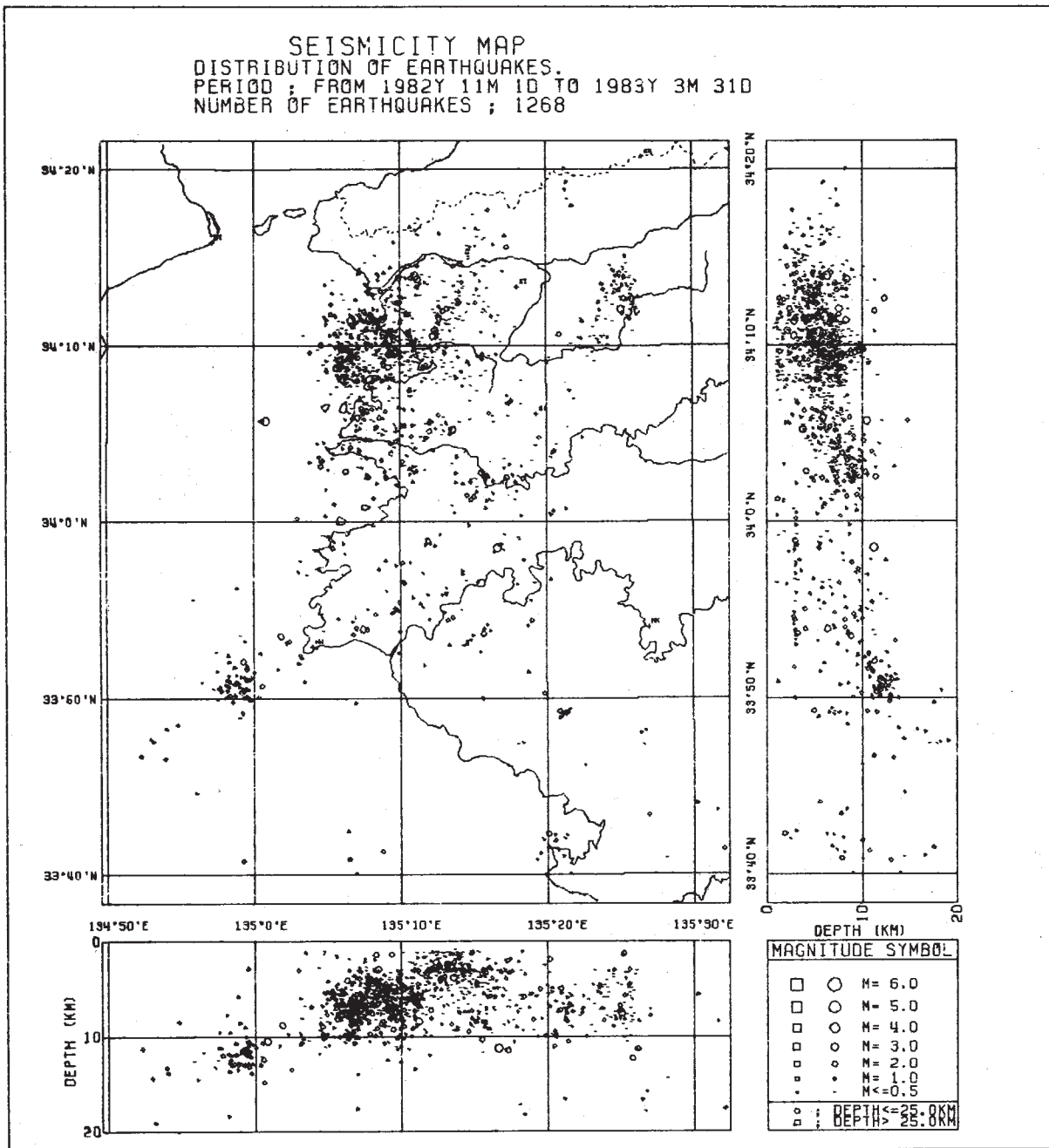
深発地震

1月15日の熊野沖の地震($M > 5.0$, $H \approx 450\text{km}$)と3月31日志摩半島付近の地震($M = 3.7$, $H \approx 400\text{km}$)が稍大きいものであった。



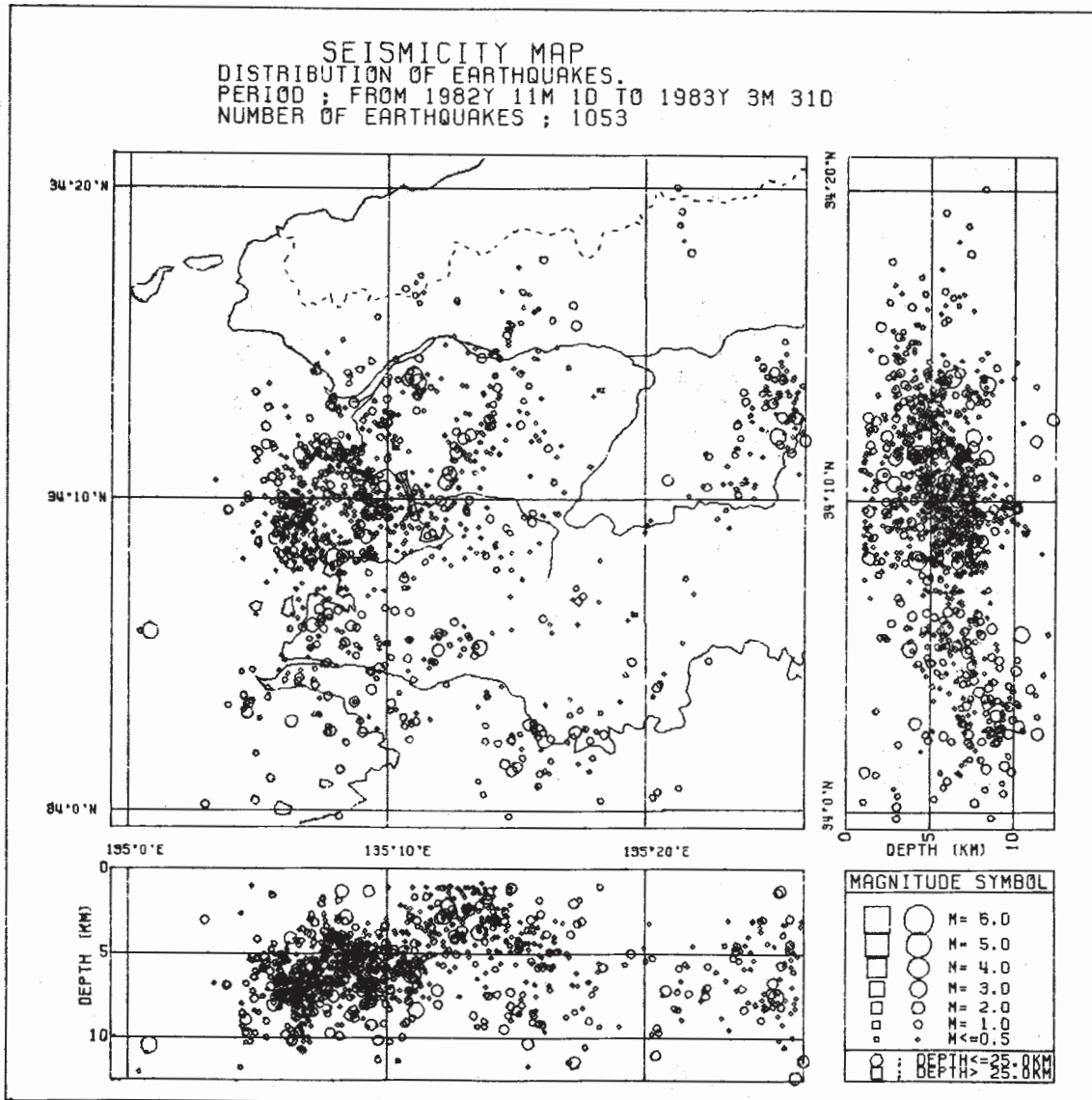
第1図 紀伊半島および周辺域の震源分布図

Fig. 1 Distribution of hypocenters in and around the Kii Peninsula (November, 1982 - March, 1983).



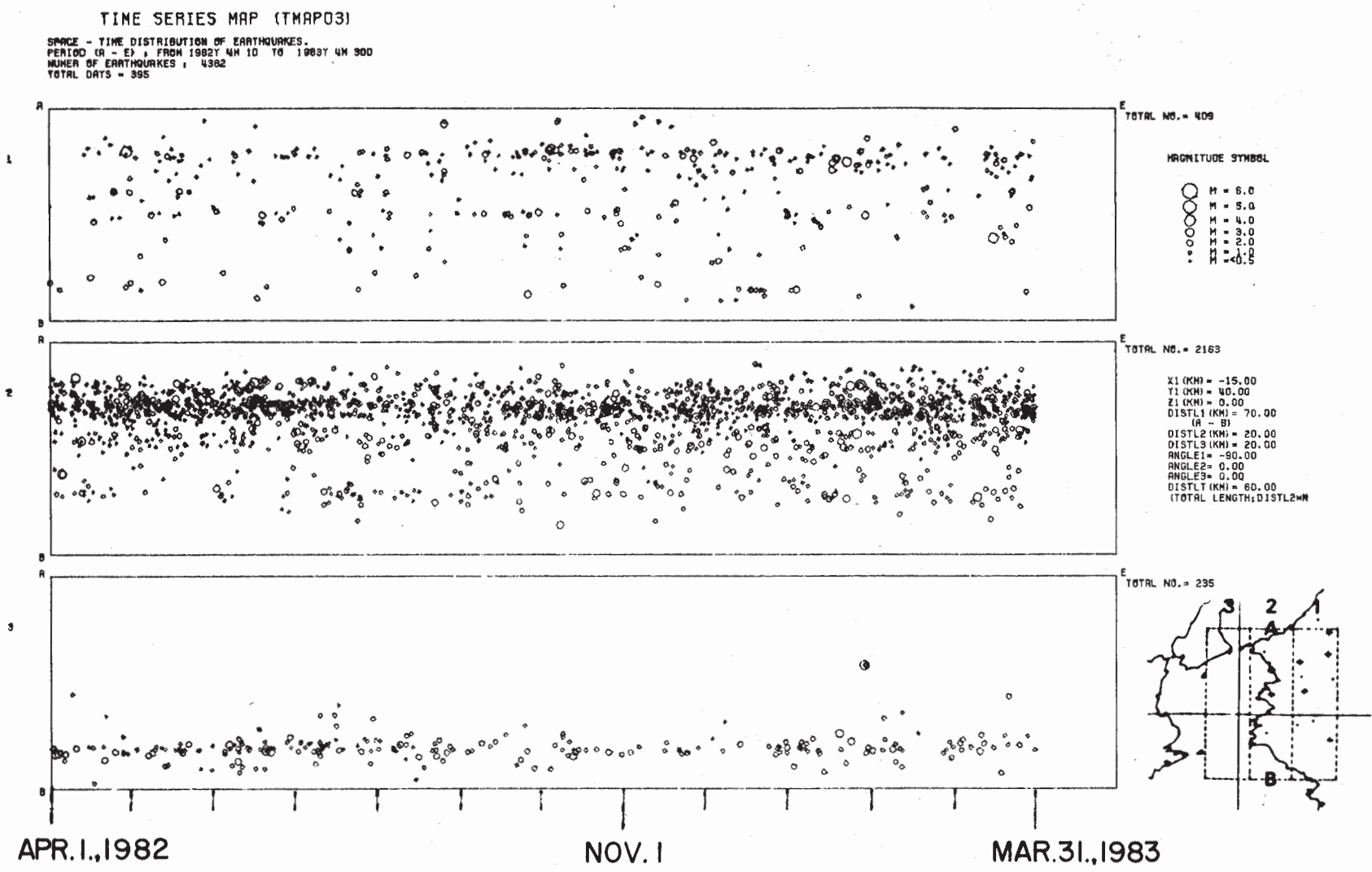
第2図 紀伊半島西部の震源分布図

Fig. 2 Distribution of hypocenters in the Western Part of the Kii Peninsula (November, 1982 - March, 1983).



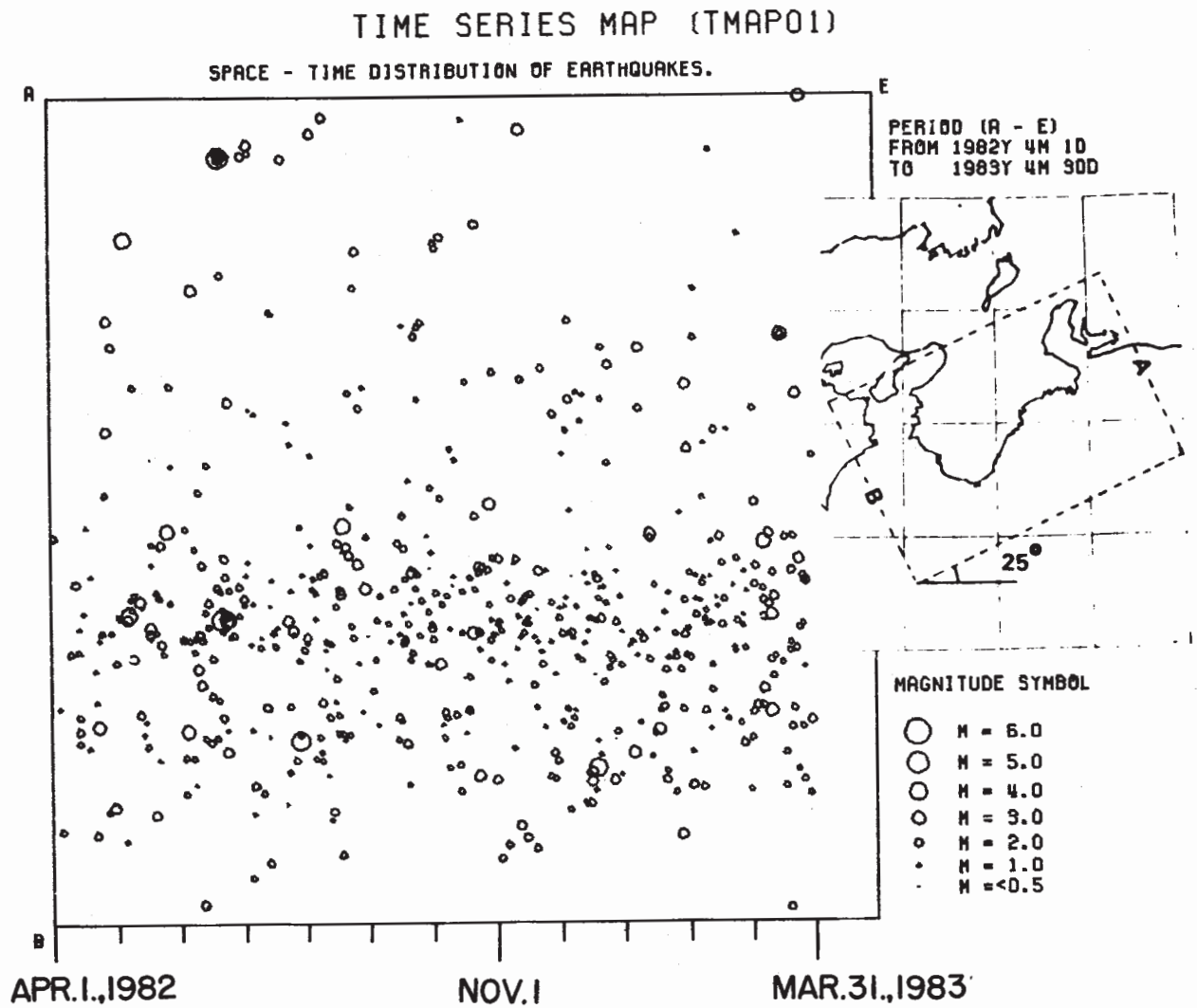
第3図 和歌山, 有田付近の震源分布図

Fig. 3 Distribution of hypocenters near Wakayama and Arida (November, 1982 - March, 1983).



第4図 紀伊半島西部の極浅発地震活動の時空間分布

Fig. 4 Space-time distributions of very shallow earthquakes in the Western Part of the Kii Peninsula.



第5図 地殻底下地震（点線内）の時空間分布

Fig. 5 Space-time distributions of subcrustal earthquakes in the area enclosed by a dotted line.